

中一国語

さまざまなた表現技法第一回

体言止め・倒置^{とう}・反復・対句・省略

講師・・羽場雅希

◆今日のゴール

- ・表現技法を理解できる。
- ・自分の日本語をもっと工夫できそう！と思える。



さまざまな表現技法

・体言止め：行末や結句を体言（名詞）で止め、
余韻・余情を残す表現。

例：体を芯^{しん}まで冷やす、冬の風。

・倒置（法）：ことばの順序をふつうとは逆にして
強調する表現。

例：ぼくは進む、たとえどんな道のりが待ってい
ようとも。

・反復（法）：同じ語句や似た語句を繰^くり返し、リ
ズムを生み出す表現。

例：明日のおやつはケーキがいいな、
明日のおやつはケーキがいいな。

・対句（法）：互^{たが}に対応する内容を似たような調
子で並べて、語調を整えたり強調し
たりする表現。

例：小鳥は空へ、魚は海へ。

・省略（法）：不要な場合や、余韻を残したい場合
に文の一部を省略する表現。

例：この庭園は、美しい。そして、広大だ。

あつ、飛行機雲が…。

【第一問】

次のA・Bの短歌に関する以下の問いに答えなさい。

A・深々と人間笑(ウ)ふ声すなり

谷一面の白百合しらゆりの花

北原白秋

B・金色こんじきのちひさき鳥のかたちして

銀杏いちようちるなり夕日の岡に

与謝野晶子よさのあきこ

(1) A・Bの歌のうち、「体言止め」になっているのはどちらか。

(2) 次の文の()の中に入る適切な言葉を書きなさい。

Bの歌の「銀杏ちるなり夕日の岡に」には、
()法が使われている。

【第二問】

次の詩を読んであとの問いに答えなさい。

未知へ

木村信子

わたしが響ひびいている

透明とうめいな殻からの中で響ひびいている

ありつたけ響ひびいている

外そとはもうすぐ春らしい

わたしが響ひびいている

痛いほど響ひびいている

あふれるほど響ひびいている

もうすぐわたしは割れるのだ

わたしが響ひびいている

おもてへこだまして響ひびいている

まだ見たこともない山へ胸をときめかせて

わたしが響ひびいている

(1) この詩の中に何度も表れている、特徴的な表現技法は何か。表現技法の名前を書きなさい。

(2) この詩について解説した次の文の空欄らんに入れる言葉として適切なものを選びなさい。

一連↓二連↓三連と進むにつれて、響いている規模が、（小さくなっている・変わっていない・大きくなっている）。